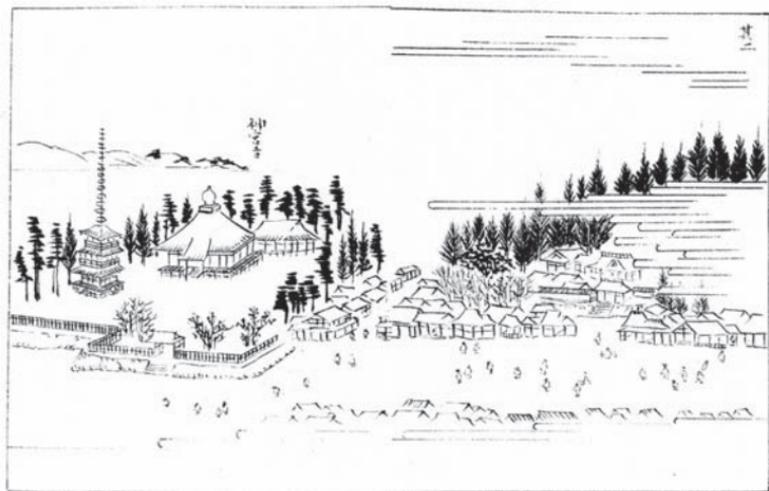


# 神宮寺壊される

# 香取遺産

Vol. 57



▲金剛宝寺伽藍 宮負定雄「下総名勝図絵」より

香取宇宮中台（香取神宮西側の雨乞い塚付近）には、明治元年（1868）まで神宮寺と呼ばれた真言宗の香取山金剛宝寺がありました。現在はすべての建物が取り除かれ、祖霊社が建てられています。

かつて、ここには観音堂（本堂）・三重塔・鐘楼・庫裡（方丈）・山門などの建物があり、江戸時代の史料を見ると、観音堂には本尊の十一面観音菩薩立像と眷属の二八部衆、三重塔には薬師如来坐像と東照大権現の神牌が安置されていました。鐘楼には至徳3年（1386）銘をもつ梵鐘が懸けてあったことが記されています。

しかし、明治元年11月から始まった廃仏毀釈によって、堂塔のほとんどが破壊され、多くの仏教美術品が壊され、あるいは

散逸したと伝えられています。金剛宝寺の仏像仏具などの一部は、香取市新部の如来寺（現在は廃寺）に送られ、三重塔の九輪や梵鐘などの金物は、社役人によって売却されて市中に回ったといわれています。

この時に東京神田の古物商に売却された梵鐘は、神奈川県藤沢市羽鳥の住人によって買い求められ、明治5年（1873）正月、同市羽鳥の御霊神社に奉納されました。現在は、藤沢市の指定文化財となっています。この梵鐘には、「奉懸 下総州香取太神宮寺大鐘一口 大旦那周防守宗廣 大工 秦景重 千時至徳三年 丙寅十月 日 敬白」の銘文が刻まれており、たしかに神宮寺から流出したものであることが確認できます。

また、本堂に安置されていた

十一面観音菩薩立像は、3mを超える大物であったためか、本堂破壊後もしばらく野ざらしにされていたようです。不憫に思った篤志家がこれを譲り受け、莊嚴寺（佐原イ）に寄進しました。

この仏像は、昭和35年（1960）に国の重要文化財に指定されています。神宮寺の建立がどの時代までさかのぼれるのかは、はっきりとはわかっていませんが、十一面観音菩薩立像の制作年代から推察すると9世紀末から10世紀初めには既に成立していたのではないかと考えられます。

現在、神宮寺跡には、十一面観音堂仏前・元禄13年（1700）銘を刻む手水鉢一盤がむなしく残るだけです。問い合わせ